



※「ガッチャンコ」とは…

「くっつける」「ひとつになる」という意味で使われる言葉。HBCが、人と人、地域と地域を「つなぐ」存在でありたいという願いがこめられています。

Press Release

HBC 北海道放送株式会社

2023年9月13日

映画『ヤジと民主主義 劇場拡大版』公開決定

12月9日(土)から東京と札幌で同時上映

表現の自由を問い、忖度にあらがうドキュメンタリー映画

HBC北海道放送が制作したドキュメンタリー映画「ヤジと民主主義 劇場拡大版」が12月9日(土)からポレポレ東中野(東京)とシアターキノ(札幌)ほか全国公開することが決まりました。

2019年7月15日、札幌で参議院選挙の応援演説をしていた安倍晋三総理(当時)にヤジを飛ばした市民が警察に排除されました。さらに年金政策を批判するプラカードを掲げようとした女性らも排除されました。「政権批判を封じたもので、表現の自由を侵害し、民主主義を脅かす問題」として弁護士や憲法などの研究者、多くの市民らが抗議しました。男女2人が北海道警察を所管する北海道を訴え、1審は勝訴しましたが、2審は判断が分かれ、裁判は現在も続いています。

本作はギャラクシー賞や日本ジャーナリスト会議のJCJ賞など多くの賞を受賞したドキュメンタリー番組「ヤジと民主主義～小さな自由が排除されたとき～」(46分)をもとに、その後の裁判の状況や排除された当事者の思いなどに迫った内容です。

排除された「小さな声」は何を暴いたのか? 社会に不寛容が広がり、メディアの忖度が指摘されるなか、声を上げることの大切さを正面から描いた本作は、決して人ごとではない問題がこの国に起きていることが切実に伝わってくるものになっています。

ナレーションを務めた落合恵子さん(作家・クレヨンハウス主宰)からのコメントです(太字部分)。

「損得」と「忖度」。言葉の響きが似ているのも腹立たしいが、この二つが絡み合った政治はいつまで続くのか。

一市民としての当然の権利、表現の自由を拒絶する社会において、わたしたちは一体なにが可能なのか。

踏まれたビスケットのように崩れつつある民主主義をまずは取り戻すために、何ができるのか。

騒いでどうなる? なにも変わりはない、と薄い笑いを浮かべて諦めるしかないのか。

この流れにブレーキをかけることができるのは、ジャーナリズムであり、わたしたち、ひとりひとりの市民しかいない。

いや、ジャーナリズムに身を置くのも、まずは自らが一市民であることを忘れてはならない。

言葉を発することに、ある種の覚悟を要するこの時代に、沈黙を破る思想と姿勢を後押ししてくれる本作品。

しっかりと受け止めたい。

もの言わぬジャーナリズムや市民が、もの言えぬ社会をつくることを、改めて心に刻んで。

メディア掲載していただける方には作品素材(ポスタービジュアル、場面写真6点等)やオンライン試写リンクをご提供します。また山崎裕侍監督の個別取材も可能ですのでご検討ください。

【お問い合わせ先】HBC 北海道放送報道部

電話番号:011-232-5876